

# 令和7年度宍粟市立幼稚園・保育所・こども園関係者評価報告書

学校園名	まあるこども園	評価委員名	山本哲史 山崎南小学校校長・堀田宇多子民生児童委員 秋田亜衣 保護者代表
------	---------	-------	---

## 1 本年度の経営方針

理念	自信を持って自分を発揮できる子どもに育てる。
教育・保育目標	「元気に遊び自分も友達も大切に出来る子ども」
教育方針	伸び伸びと意欲的に遊ぶ中で生きる基礎を培う。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で安心な環境の下、基本的な生活習慣の確立を目指します。</li> <li>園児一人ひとりの発達や特性に応じた教育・保育を一体的にしていきます。</li> <li>豊かな自然や地域の人との関わりを通じて、健やかな心身、豊かな感性を育てていきます。</li> <li>地域・家庭と連携し、すべての子育て家庭への支援に取り組みます。</li> </ul>

## 2 本年度の重点目標

園内外の環境に興味を持ち、積極的に関わろうとする園児の育成～相手の思いや考えに気づき遊びを広げる～
① 子どもの心を捉え主体的に遊べる環境づくりをする。
② 地域での体験や人との関わりの中で子どもの心身を育てる。③基本的な生活習慣の確立と規範意識の芽生えを培う。

## 3 自己評価結果 (A~D) A:達成 B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (園所、教師・保育士・保育教諭の取組) 評価指標 及び目標値 (期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
① 主体的に遊べる環境づくり 子どもの心を捉える	項目 園児の発達段階を考慮し、心を動かせる遊びや生活の環境を整える。	指導計画 アンケート調査票 園内研修振り返り	A	A ・指導計画は複数人で添削を徹底し、きめ細かく作成したことが実践に繋がられた。教育・保育がマンネリ化しないよう、心を動かせるような環境を重視した計画・実践・振り返りを継続したい。 ・教材研究をする時間を毎日確保したいが、難しい現状である。続けて人材確保していきたい。また時間が出来た時には乳児・幼児組の担当者が譲り合いや工夫をする等、しながら、互いの教材研究の時間を増やしていきたい。
	指標 ・年齢や発達段階、個々の特性に応じた保育内容になっているか ・園児の興味関心に添った環境を整えることが出来たか。評価、反省 達成度A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満			
② 地域での体験や人との関わりの中で子どもの心身を育てる。	項目 教材研究・園内研修を通し指導力を高める。	指導計画 職員自己評価 園内研修振り返り	B	A ・校区のパートナーシップを通じ連携できた。今年度は連携したい内容を明確にすることや計画的に行うなど具体的に取組みたい。 ・特別な支援を必要とする園児にとって過ごしやすい環境がくれた。 ・園近辺で収穫体験や地域の方々とのやりとりなど繋がりが増え、教育・保育の広がりを感じた。園児が地域で多くの体験ができる機会を作れるよう保育教諭も地域の事を知り馴染めるようにしたい。
	指標 ・教材研究をする時間の確保が出来たか又園内研修の計画や振り返りが保育に活かされているかどうかの評価・反省 達成度A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満			
③ 基本的な生活習慣の芽生えを培う。	項目 小学校や他の専門機関との連携を図る。	指導計画 指導・児童要録 アンケート調査票 特別支援計画	A	A ・0～5歳児の発達を園全体のものとして捉えられるよう、共通理解、価値観の下、感じた事や気になることを全職員で確認しながら教育・保育を進めてきたが、今後も継続出来るよう努めたい。 ・約束やルールを意識出来るよう関わったが、自ら相手の話を聞こうとする態度や気持ちを育てるところまでには、至らなかった。引き続き生活や遊びを通して、主体的に関わろうとする園児の内面の部分を育てる関わりをしていきたい。
	指標 ・教育機関・専門機関と連携し園児の成長に繋ぐことが出来たか。 ・特別な支援を要する園児への関わりの評価。 達成度A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満			
④ 確立した生活習慣の意識	項目 地域の方との触れ合いや地域の自然を取り入れた教育・保育の工夫	指導計画 アンケート調査票 職員自己評価 園自己評価	B	A ・0～5歳児の発達を園全体のものとして捉えられるよう、共通理解、価値観の下、感じた事や気になることを全職員で確認しながら教育・保育を進めてきたが、今後も継続出来るよう努めたい。 ・約束やルールを意識出来るよう関わったが、自ら相手の話を聞こうとする態度や気持ちを育てるところまでには、至らなかった。引き続き生活や遊びを通して、主体的に関わろうとする園児の内面の部分を育てる関わりをしていきたい。
	指標 ・地域に出かけたり収穫体験をさせてもらったりする中で人との触れ合う機会をもち地域の事を知り教育・保育に繋がられたか。 達成度A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満			
⑤ 基本的な生活習慣の意識	項目 生活リズムを整え、心身共に元気に過ごせるようにする。	指導計画 園内研修振り返り 職員自己評価 園自己評価 連絡帳	A	A ・0～5歳児の発達を園全体のものとして捉えられるよう、共通理解、価値観の下、感じた事や気になることを全職員で確認しながら教育・保育を進めてきたが、今後も継続出来るよう努めたい。 ・約束やルールを意識出来るよう関わったが、自ら相手の話を聞こうとする態度や気持ちを育てるところまでには、至らなかった。引き続き生活や遊びを通して、主体的に関わろうとする園児の内面の部分を育てる関わりをしていきたい。
	指標 ・個々に応じた整え方や日々の生活や遊びの様子など他の保育者や家庭と共有し安定した心身をつくることに努めたか。 ・体幹を強くし姿勢を整える活動を意識して日々の教育・保育に取り入れられたか。 達成度A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満			
⑥ 基本的な生活習慣の意識	項目 人の前で話す、人の話を聞く態度や気持ちを養う。	指導計画 職員自己評価 アンケート	B	A ・0～5歳児の発達を園全体のものとして捉えられるよう、共通理解、価値観の下、感じた事や気になることを全職員で確認しながら教育・保育を進めてきたが、今後も継続出来るよう努めたい。 ・約束やルールを意識出来るよう関わったが、自ら相手の話を聞こうとする態度や気持ちを育てるところまでには、至らなかった。引き続き生活や遊びを通して、主体的に関わろうとする園児の内面の部分を育てる関わりをしていきたい。
	指標 ・相手の気持ちに気づけるような関りや、約束やルールを守ろうとする態度や気持ちが育つよう努めたか。 達成度A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満			

### 自己評価における特記事項

こども園へ移転し2年目となり、園児や保育教諭も新しい環境に慣れて来ている。保護者とも信頼関係が深まりつつあるが、自園の理念や教育・保育に対する共通理解や組織体制については、もう少し時間がかかりそうだ。地域・小学校との繋がりについては出来ているところや出来てないところを整理し、自園からの発信や具体的な計画等、小学校や専門機関と連携をとり進めたい。安全対策について大きな事故や災害に遭遇していないので、危機感を持ち、訓練を行いたい。

## 総合的な園所関係者評価

- ・研修会の持ち方やねらいについて、学校や福祉施設での例を挙げながら以下の通り助言した。年度の初めに個人目標と研修計画を立てその後、事業所の全体計画を立てている。又個人の強みを活かせる実践内容や目標になるよう工夫している。年度末には具体的に何が、どのように変わったかが分かり、個人の成長に繋がっていると思う。計画、実践、評価を繰り返しながら次年度へ反映させていくことが組織の質の向上に繋がるのではないかと。
- ・熱心に取り組んでいるので、こども園として実行出来そうな視点を絞り、計画的に運営を充実されると保護者にも伝わるのではないかと。
- ・小学校とこども園では、システムが違ったり、自己決定にける時間の取り方が違ったりして、不安に思う児童がいるのかもしれない。たとえばチャイムが鳴っているのに部屋に入らない児童がいても、そこにつく教師はいる、管理職も協力してその時間が徐々に短くなるよう指導するので安心して欲しい。見学や学校探検ならいつでも来て下さい。

## 園所関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	・「人材確保とあるが教材研究の為に人材が必要と言う意味ですか？」の問いがあり、余裕がない状況を伝えた。小学校でも教材研究の時間は取りにくい状況で、持ち帰りや残業になることもある、現場を第一優先で良いと思うので引き続き人材を確保して資質向上に努めて欲しい。 ・研修会の持ち方について、年度の初めに個人目標を立てるが、同時に研修計画を立て、個人の強みも活かす全体の計画にすれば年度の終わりにはもう少し具体的に出来たこと、出来なかったことが見えると思う。そのことを次年度に繋ぐことが出来たら資質向上になるのではないかと。
◎	◎	・こども園と小学校では遊びの時間や「自己決定」「折り合いをつける」などにかかる時間の使い方が違うことや、システムが違うことに、「ドキドキ」するのではないかと、小学校でも最初から時間で動く事ばかりではなく、徐々に慣れてくれるよう、教師も管理職も協力しながら体制をつくっているのだから、安心して欲しい。 ・小学校へのアプローチは、年度初めに具体的な計画を依頼し、園児やその保護者が安心できるようなスムーズな流れをつくってほしい。 ・地域へ散歩に行ったり、体験させて頂いたりしながら地域の方との触れ合いを通し、地域の様子や良さを伝えていきたい。
◎	◎	・就学児保護者より、就学に不安を感じる人が多いとの意見があり、小学校長をはじめ各委員から、テクニカルな事よりも生活習慣や意欲に繋がることが大切である、子どもは吸収する力を持っているので元気に入学してくれたらよいのではないかと、学校との線引きが難しいかも知れないが家庭では寄り添った「自立支援」や抱きしめ「大丈夫やで」と安心できる環境をつくってほしい。との改善策が提案された。 ・家庭と連携し、絵本を見たり、読んでもらったりすることが習慣となるようまた「聞く力や態度」を育てたい。また「規範意識の芽生え」など生きる基礎を培う時期であることを理解し、大切に積み重ねていきたい。

### 項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・乳幼児期は、人としての「性格」や「習慣」が備わる時期であることを再度確認し合い、保護者と共に焦らず、気を抜かず園児の心身の育ちを支えていきたい。またチームで保障して行けるよう積み重ねることの大切さを伝えていきたい。
- ・1年を通じ主体的な園児の育成に取り組んできたが、主体的の意味の捉え方が統一ではないと感じた。心情・意欲・態度を育てることや遊びを通して総合的な指導をすることも分かっているが、まだ途上である。研修や話し合いを重ね深く探れるような組織を目指していきたい。